

GSE来日フランスチーム報告

地区研究グループ交換委員会

委員長 **野村 正勝**
(箕面中央RC)

2年前トルコのGSEチームが来日したとき、彼らは歓送会でプレゼンをした。滞在中の何気ない街角の写真も詩的で、日本への敬愛の情に溢れ、ホストファミリーへの感謝に満ちた素晴らしいプレゼンで参会者の心を打った。四人の団員は皆泣きじゃくっていたり、涙ぐんでいた。私はパナ・ヒルズの一階の会場の後ろの壁にもたれながら、彼らの豊かな情感と優れた才能に改めて感銘を受けたのである。

今年2660地区のGSEチーム5名は前回述べたように(ガバナー月信4月号)パリ郊外東地区を訪ねながら3月29日最後の訪問地プロバンを朝、出発してシャルルドゴール空港に着いた。

フランスのGSEチームも既に到着しており、ここで両チームが会い交えたのである。団員のブノア・サムソンさんはノワイヨンRC(地図参照)で私たちがプレゼンをしたとき英語からフランス語への通訳をしてくれた背の高い親切な方で既に知り合っていた。もう一人のイシャム・ブルナンさんにはプロバンRCの例会にお姉さんと来られており、プロバンの市庁舎で市長との会見時に今度はお母さんと見えていて私はお姉さん、お母さん共々固い握手を交わしたのである。フ

ランスチームの他の3人にはこの時初めて会ったことになる。アルノー・パシル(セナRC)さんもエマニュエル・スクート(ムーランRC)さんもビジネスマンらしい落ち着きのある好青年であった。団長のジル・オネゲル(エブリ・バルデ・セヌRC)さんは英語もイタリア語もスペイン語もドイツ語も話せるとまくしたて、すこぶる元気だった。丁度1770地区のガバナー ジーン・シュミット夫妻が見送りに来られていたのでオネゲル団長の音頭でガバナー夫妻を中心に私たちは何度も写真を取った。

今フランスチームは当地区のGSE吉川副委員長を初め吉川次期委員長、それに地区委員の方々、各クラブのご担当者のご努力で出来上がった心づくしのスケジュールにしたがって充実した毎日を送っておられる。季節も桜花爛漫の良い時期に重なって素晴らしい交換になっている。私は彼らに歓送会でのプレゼンをお願いしているが、パリ郊外の緑豊かな田園地帯に住む彼らが大阪、もっと広く関西に、どんな印象をもたれたのか正直なところを是非聞いてみたいと心待ちにしているのである。

